

大伴小だより



富田林市立大伴小学校 令和2年12月24日(木) 1月号

「幸せ上手」な「おもちゃ箱」

校長 堤 周作

「新型コロナウイルス感染で休校3か月」「東京オリンピック延期」「感染防止対策の行事」「大伴小学校区(東板持町)で育った浪花千栄子さんの全国放映(NHK朝の連続ドラマ『おちょやん』)」など、1年前には全く想像できなかった、あまりにも印象深い1年でした。そんな中、校長として赴任した大伴小学校での激動の日々を一言で表せば「楽しかった!」。それは愛すべき「おもちゃ箱」(大伴小の児童と教職員)のおかげです。

本校の子どもたちは、概ね「幸せ上手」(造語)であると感じます。修学旅行や臨海学舎、遠足、運動会等の様々な行事で実感しました。授業中や休み時間、しんどいはずの取組み(持久走、縄跳び等)も自分なりに楽しんで取り組んでいます。勉強や運動の得意な人も苦手な人も一緒に楽しむという雰囲気があり、しんどい取組みでも悲壮感があまりありません。種々の調査でも自尊心や「他の人と協力できる」という数値が高いのです。外部からの訪問者は一様に素直で元気、遅いと言われます。これは教職員の工夫や努力もあるとは思いますが、保護者や地域の皆さんが育てこられた「地域性」によるところが大きいと感じます。

一方、「幸せ上手」と反対の人がいます。友だち、親、先生、社会への不満、不満を挙げ出したら次々にでてきます。そして不満を他人の責任にする、友だちに愚痴を言ってまわる。すると周りの人もだんだんネガティブな気持ちになり、一生懸命に努力することがばからしくなってくる。そんな不満を言う人同士が集まると互いに共鳴し、不満は2倍3倍でなく2乗3乗にと膨れ上がる。そのような人を私は「不満お化け」と呼んでいます。学校では子どもが「不満お化け」にならないよう努めていますが、いかんせん思春期は反抗期があり「不満お化け」に陥りがちです。

しかし、そんな子どもたちも愛情深く機を見て適切に指導助言していくと、成長とともに「親や先生等の大人たちも弱いところがあり、自分と同じように悩みながら一生懸命に生きていること」を実感し、少しずつ「不満お化け」を卒業していきます。それまでは保護者と教職員が協力し、子どもたちの「心の危機」を乗り越えていきたいものです。「不満お化け」でなく様々な内的外的

要因で苦しんでいる人へは、保護者等と相談し粘り強く指導しています)

ところで、子役で有名な芦田愛菜さん(16歳)が、9月にイベントで「信じる」ことについて聞かれたコメントが、日本だけではなく他の国の人々からも反響を得ています。



『その人のことを信じようと思います』っていう言葉ってけっこう使うと思うんですけど、『それがどういう意味なんだろう』って考えたときに、その人自身を信じているのではなく、『自分が理想とする、その人の人物像みたいなものに期待してしまっていることなのかな』と感じて

だからこそ人は『裏切られたとか』、『期待していたのに』とか言うけれど、別にそれは、『その人が裏切った』とかいうわけではなくて、『その人の見えなかった部分が見えただけ』であって、その見えなかった部分が見えたときに『それもその人なんだ』と受け止められる、『揺るがない自分がある』というのが『信じられることなのかな』って思ったんですけど

でも、その揺るがない自分の軸を持つのは凄く難しいじゃないですか。だからこそ人は『信じる』って口に出して、不安な自分があるからこそ、成功した自分だったりとか、理想の人物像だったりにすがりたいんじゃないかと思いました

芦田さんはこの質問に対して、1分余りに渡り丁寧に受け答えしていました。何度か「何だろう」と考えながら言葉を紡いでいたことから、あらかじめ準備したコメントではないでしょう。あくまで自分の言葉で語っている上に、聞く人のことを意識して、筋道立てた話し方をしていたことに驚かされます。何と云っても、人に裏切られてもその人の責任にしない芦田さんの潔さ、ポジティブな考え方に感心しました。まさに「幸せ上手」な人だなあと思います。

子どもは自分のことを大切にしてくれると感じる仲間や家族の中で、安心して自分の思いを開示しながら生活しています。学校や学年・学級では、多様な持ち味のある子どもたちや教職員が、その持ち味を尊重しながら様々な学習や活動を行っています。本校は、豊かな人間関係があふれる、しかしまだ失敗や間違いがある未熟な、「宝箱」になりかけの愛すべき「おもちゃ箱」というのがぴったりきます。だからこそ毎日が楽しいのです。

最後に、保護者の皆様には前例のない特別な1年、試行錯誤の本校教育活動へのご協力とご支援に厚く御礼申し上げます。まだまだ感染が収まらず不透明なことが続く新年も、「幸せ上手」な子どもの育成、愛すべき「おもちゃ箱」づくりに、教職員一同、励んでいく決意です。来年も子どもたちの健やかな成長に向けて、ご理解とご協力の程、お願い申し上げます。

では、どんどん寒くなる年末・年始とご自愛頂き、良いお年をお迎えください!